

# 学校教育とスマートフォンの共存

かえつ有明高等学校2年 山本拓夢 片山大輝

## 現状確認

### 調査対象



かえつ有明中学・高等学校でのスマートフォンの利用の現状についての確認を行うために、2019年12月10日～17日まで、中高合わせて生徒507人と先生15人を対象として調査を実施した。

### <現在のかえつの携帯電話・スマートフォンに関するルール>

- 登下校中の使用は許可されている。
- 学校内での使用は禁止。(学校行事時の使用も不可)
- 朝のホームルームの際に担任教諭が生徒の携帯電話・スマートフォンを回収し、保管する。帰りのホームルームになったら、生徒に返却する。

### Q.かえつの携帯電話・スマホルールについて、満足度を教えてください



### Q.かえつの携帯電話・スマホルールについて、満足度を教えてください



### 「かえつの携帯電話・スマホルールについて、満足度を教えてください」というアンケートには...

- ・「とても満足・やや満足」と答えた生徒のが27%なのに対し、「とても不満・やや不満」と答えた生徒が35%もいた。
- ・先生に関しても、「とても満足」と答えた人は1人もおらず、半数以上の8人が「とても不満・やや不満」と回答する結果となった。

### 実際に寄せられた不満の声...

#### <生徒>

- ・文化祭や体育祭などの行事で使いたい。
- ・学校でも使いたい(休み時間や放課後の娯楽・授業内でわかenらないことを知らべたいなど)
- ・ルールが厳しすぎて、納得感がない。

#### <先生>

- ・回収や返却に手間がかかる。
- ・回収や返却に伴う、破壊の危険性がある心配である。
- ・使用を制限することは容易であるが、生徒の自己管理能力を高めることが大事なのではないか。(制限することによって、生徒の自己管理能力を高める機会を損失している)
- ・回収するよりも、授業で活用したい。(調べ学習やポートフォリオの作成など)

→生徒のみならず教員も現状の携帯電話・スマホルールに満足していないことがわかった。

### 近年、ICT化に伴い教育面で、BYOD(Bring Your Own Deviceの略)が導入されるように...

- 東京都教育委員会では「Wi-Fi環境を普通教室に整備し、生徒の所有するICT機器を活用した学習支援等を実施することの有効性を検証し、導入時及び運用における課題の解決の方向性を検討する」ことを目的に、一部の都立高校をBYOD研究指定校に指定している。(引用元:東京都教育委員会HP)
- 生徒が自分の端末を学校に持ってきて、授業に活用する動きが広がっている
- 文部科学省  
→2019年5月31日に「学校における携帯電話の取り扱い等に関する有識者会議」の第一回を開催  
・学校における携帯電話の制限の見直しが行われた。現在は第七回まで行われている。(引用元:文部科学省HP)

### 参考文献

- 「文部科学省HP」, URL: <https://www.mext.go.jp>
- 「東京都教育委員会HP～BYOD研究指定校等について～」, URL: [https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/designated\\_research\\_school/byod/byod.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/designated_research_school/byod/byod.html)
- 「ICT教育ニュース～文科省、学校における携帯電話の取り扱い見直し議論開始 『災害』事件』等踏まえ～」, URL: <https://ict-enews.net/2019/06/01mext-13/>



会議の中に生徒の姿はなく、現場の声が届きにくいところで議論がなされている(画像:ICT教育ニュース)  
→ルールに従うことになる当事者である生徒の意見が反映されにくい状況で、生徒をはじめとし、先生や保護者など、学校に関わる多くのひとの納得する決定を下すことは難しいのではないかと



※「有識者会議の様子」引用元:ICT教育ニュース

## 仮説

生徒も交えた場で意見を交換し合い、議論することで、学校に関わるより多くの人が納得する規制のあり方を考え出すことができるのでは...

## 検証と結果

2年A組  
山本拓夢  
片山大輝

### 現在行っているプロジェクトについて

2020年2月8日(土)

現在、スマホ利用に関するプロジェクトを行っています。その最大成果であるアウトプットのポスター作成に向けて、既存のものとは異なるルールの試験運用と事後のアンケート結果二つから得られる考察をしたいと考えています。実際の生徒の声を集めるために、今回の試験運用の許可を頂くことを希望致します。

#### 概要

来週の二日間(日程は任意)で下記の二つのルールに則り2年A組の生徒にスマートフォンを利用してみたいと考えています。その際アンケートを実施し、現在行っているプロジェクトのアウトプットであるポスター作成に利用します。

#### 試験運用一日目

・スマートフォンは回収せず、生徒の自己管理とする。授業時間も基本的に電源を切り、調べ学習やメモ等利用したいときは、その時の担当の先生に許可を得てから利用する。

#### 試験運用二日目

・スマートフォンは回収せず、生徒の自己管理とする。休み時間中の利用を許可する。しかし、授業時間になったら電源を切らなければならない。(授業中は上記のルールと同様に、担当の先生の許可を得てから利用する。)

※いずれの場合も、教室のみで運用のルールとし、教科担当の先生方には事前に了承を得ることとします。

学校全体としてのルールから行われる行為の許可を得ることが困難であることは私たちも理解しています。しかしながら、この試験運用は私たちのプロジェクトをより発展させていくのに不可欠なものである。加えて、二日間という短い期間での実施であり、継続的なものではないことを考慮していただき、許可して頂けると幸いです。実施するにあたって、多くの先生方のご協力を頂くことには大変感謝しております。

※実際に提出した企画書

私たちは、前述のような仮説から以下の流れで検証を行なった。

私たちと担任教諭で双方の納得出来るルールを2つ制作

- ルール1:電源は常にオフ
  - ルール2:休み時間中の使用を許可、授業中は基本的に電源オフ
- ※いずれも生徒の自己管理とし、回収は行わない。

2つのルールの適用を実現するために、企画書を提出(左のもの)

実際に2つのルールを自分たちのクラスで試験的に適用

適用中の生徒の様子を観察、適用後の生徒へのアンケートを実施

### 実施中の生徒の様子

・ルール実施前(通常時)は、回収される時にダミーのスマートフォンを出し、自分が普段使っているスマートフォンを校内で隠れて使用している生徒が一部いた。

#### それに対し、

・2日間とも、私たちと担任教諭の定めたルールに法って生活を送っていた。  
→実施前よりも納得しやすいルールが適用されることで、ルールの範囲内で使用をしていた。

### 実施後のアンケートで多かった生徒の声

- ・スマホにしかない資料を利用することができたこと。
  - ・調べたいことをすぐに調べることができたこと。
  - ・授業中に使用する際に、職員室まで取りに行く手間が省け、学習に集中できたこと。
- 学習している生徒自身にしかわからない声が多く見られた。

## 考察

検証中の生徒の様子を見て、納得できるルールであれば、ルールを破らず、そのルール内でスマホを使用することがわかった。  
→生徒の満足度を高めるためにはもちろん、ルールが最大限機能するためにも生徒が納得できるルールをつくるのが不可欠。

検証実施後のアンケートから当事者にしかわからない現場の意見があることがわかった  
→生徒をはじめとする学校に関わる多くの人が納得するルールづくりのためには、生徒などの当事者の意見を聞き、反映する必要がある。

#### そのためには...

「学校における携帯電話の取り扱い等に関する有識者会議」などで、生徒も交えた議論の場を設けることが必要である。